

いのちいっぱい 感動いっぱい ～ ありがとうの旅を続けよう！～

1学期の折り返し地点に来ました。時々見える入道雲が、夏が近いことを教えてくれています。暑い暑い夏を待ちたいと思います。

お掃除しますね

本校には、特別支援学級が2クラス。昨年から2クラス減となり、少し寂しくなりました。しかし、学級で生活している子どもたちは、毎日、いろいろなことに挑戦し、多くの成長を見せてくれています。

その中の一人Aくんは、1年生の頃は言葉がほとんど出ませんでした。私が出会ったのは、2年生になる春でしたが、言葉を獲得するには少し時間がかかるだろうと感じていました。ただ、日々の生活の中で、子どもたちや先生方は多くの関わりを通して接してくれていて、Aくんの発語をあきらめず、共に生活をしてきてくれていました。Aくんの言葉が、単語として出始めたのは、その関わりが始まって1年と数か月が経った2年生の9月頃からでした。それからあっという間に単語数が増え、3年次には単語が短い文章として聞こえ始めてきました。今では、多くの言葉が聞こえるようになり、短い会話として成り立つようになっています。そして、今もみんながAくんの成長をあきらめず関わり続けてくれています。

先日、早退をするBちゃんを窓から見ていたAくんが、Bちゃんに手を振りながら言葉を掛けました。

「バイバイ。お掃除しますね。」

AくんとBちゃんは同じ掃除場所。きっとAくんは、早退をしているBちゃんに、こう言いたかったのだと思います。

「Bちゃん、元気になってね。(苦手なお掃除だけど、Bちゃんの方まで) お掃除しますね。」

私、悪いことをしてしまったんです

ある日、職員室前で行ったり来たりしている6年生のAさんの姿が目に入りました。校長室からもその姿が見え隠れしていました。なにやら様子がおかしいと感じ、声を掛けました。

「どうした、Aちゃん？」

「あ～、あの～、入ってもいいですか？」

「いいよ。」

校長室に入り、近づいてきたAさんは、こう続けました。

「校長先生、私、悪いことをしてしまったんです。だから、之成先生に報告に来たんです。でも、之成先生がいなくて…。」

自分の落ち度を反省し、学級担任に謝りに来たAさんでしたが、之成先生が見当たらず、どうやら廊下を緊張した状態でうろうろしていたようです。

「何をしちゃったんだい？」

私の質問に彼女はこう言いました。

「あのお…。実は、私、昨日…校内で食べてはいけないことになっているお菓子を遊具のところで食べてしまったんです。気が付いたら食べていて…。だから、之成先生に謝りに来ました。」

きっと彼女の脳裏には、校内のルールを破ってしまって、厳しい指導が待っていると思っていたのでしょう。しかし、勇気を持って報告に来てくれたことに、私は嬉しく思いました。

「よく言ってくれたね。自分から言ってきたことに、之成先生はきっと理解を示してくれると思うよ。やったことは良くないことかもしれないけど、あなたは、それを隠し続けるんじゃなく、反省してこうしてきちんと報告に来てくれているじゃない。之成先生は、きっとあなたの反省の心の方が嬉しいと思うよ。当たって砕けろ！がんばって来い！」

「はい！」

気持ちを切り替えて校長室を出て行ったAさん。しばらくして、Aさんにどうなったか尋ねました。するとAさんは、笑顔で元気にこう言ったのです。

「はい、大丈夫です！」

之成先生が、Aさんにどんな言葉を掛けてくれたかは、その返事から想像がつかしました。何よりも、自分の過ちを自分の力で解決していこうとしたAさんのその気持ちと行動(感じて動く)に、さわやかな「感動」を覚えたのです。(※ 本人の了解を得て掲載しています。)

校長先生、どうぞ！

作業をしていた私のところに、4年生の女子3人が駆け寄ってきました。

「校長先生、四つ葉のクローバーをどうぞ。」

「へ～、四つ葉のクローバーを見つけたのか。ありがとう。でも、これもらっていいの？」

「はい、私、他に持っていますから。」

「そうか、ありがとう。四つ葉のクローバーを持っていたら、幸せになるって聞いたことがあるよ。みんなで幸せになれるかも。」

笑顔を残し教室に戻った3人の笑顔が、私には何よりの幸せでした。

うめー！

校舎改修に関わる動きも終盤を迎え、5月中旬には、グラウンド整地のための8立米の土がグラウンドへ運び込まれました。トラック4台分の真砂土があちこちに落とされ、その山を平らにする作業が子どもたちの手を借りて行われました。力と丁寧さが必要な作業ですが、5・6年生が中心となつてがんばってくれました。

ある日の放課後、他の子どもたちが遊んでいるグラウンドで、3人の6年生男子が山積みになっている土を平らにする作業をしていました。私は、とっさに学担に聞きました。

「あの3人は、自主的にやってるんやろうか？」

「はい。そうなんです。自主的です。何も言っていないです。今から声を掛けに行きます。」

学担もその姿に気付いていたらしく、声を掛けに行く寸前でした。私も冷蔵庫にあった牛乳とお茶を手には、声を掛けに行きました。行くと、汗だくになって作業をしている3人の姿がありました。

「3人とも、ありがとうな！暑いやろう。牛乳でも飲め！」

「おー！ありがとうございます！」

汗だくになっていた3人は、牛乳を手にするやいなや、一気に飲み干しました。

「うめー！」

3人の何とも言えないその笑顔に、言葉では言い表せない喜びを感じたのです。3人には、この言葉しかありません。「ありがとう！」

6年生 修学旅行へ

5月31日より3日間、6年生が修学旅行に出掛けます。今年度も日土小学校との合同で実施しますが、昨年度の反省を生かしながらより良いものを目指したいと思います。旅程は以下のようになっています。雨や台風との闘いになりそうですが、それ故のいい経験やいい出会いがあることを期待したいと思います。

1日目 アフリカンサファリ → 太宰府・九州国立博物館 → 大浦天主堂

2日目 長崎平和資料館・平和公園 → 福岡マリンワールド → P a y P a y ドーム

3日目 城島高原パーク

「激動の力士 前田山」 練習開始

7月29・30日に行われる市民ミュージカル第3弾「激動の力士 前田山」へ出演することになった5・6年生。本校出身の第39代横綱前田山栄五郎の学習を終え、先週24日からその練習が開始されました。この練習開始のための事前打合せに、脚本家であり演出家の大杉氏が17日に来校されましたが、その時の私の質問に対してこんなことをおっしゃいました。

「CATVから取材をさせてほしいという依頼が来ているのですが、やはり難しいですね。今までも練習非公開とか役柄非公開など聞いていましたので…」

「いいえ。それと全くの逆です。実は、よくそうやって聞くんですけど、私は反対の考えなんです。CATVでもどこでも、どんどん来ていただいて、がんばっている姿をPRしてもらいたい。だれが出るのかも分からないのに、見に来てくれる人は見に行きたいって思うのでしょうか。知っている人や親しい人が出るからこそ、ぜひ見に行きたいと思えるんじゃないのでしょうか。どんどんアピールしてください。」

以前聞いていた話と違った回答で、どう反応していいか分からなかったのですが、でも、極秘の内に練習を進めることに気を遣わなくてもいいことになったので、少し気が楽になりました。ということで、保護者の皆様、地域の皆様、喜須来小学校の5・6年生が友情出演をしますので、チケットをご購入いただき、是非見に来てください。